

東京の大学を知ろう! (IX)

～シリーズ: 大学について知ろう (その18) ～

以前紹介した東京の人気私大グループであるMARCHには、昔は地方進学高校からも大量受験して合格者を数多く輩出していました。しかし、ここ数年にわたる文科省による入学定数厳格化の締めつけと、入試制度改革によって現役志向が高まったことによる私立大受験者増で、MARCHの難易度が一気に上昇してしまい、増え続けていた受験者数が今春は減少に転じたのです。このMARCHに替わって受験者数を増加させたのが一つ下の難易度帯の「日東駒専」。順番に、一昨年のアメフト問題での受験者減から回復し池江璃花子が在籍する(1)大学、男子短距離界のエース桐生祥秀の母校(2)大学、萩本欽一が昨年まで仏教学部に在籍していた(3)大学、元広島カープの黒田博樹投手の母校(4)大学ですが、その中でも現在最も元気のよい(2)大学を今回は皆さんに紹介することにします。 ※上記の()の答… 梨壱ヲ 壺囃シ 梨壱ヲ 幸日!

以下の文章は5年前(2015年)に私が説明会に行ったときのことを書いたものです。東京にある人気私立大学の雰囲気をお楽しみください。

TOYO UNIVERSITY

東洋大学に行ってきました…



東洋大学が元気がよいのは何故だ!

東洋大学は1997年に日本の大学としては初めてアニメキャラクターを使用し、一時「ムーミン大学」と呼ばれていた。大学のパンフやポスターにムーミンが登場し、女子高生に大人気となり、柏原クンの活躍によって箱根駅伝で優勝したことも相まって志願者が一気に増えたのである。しかし、数年前からムーミンの姿は消えてしまう。実は紙ベースの大学パンフレットの製作をやめたのだ。それと同時に入試の出願もすべてWeb出願で統一してしまったので、テレメールのパンフや入試要項の請求リストに東洋大学の名前はない。大人気だったムーミンが消えたのに志願者が増加しているのは何故か、今回はその秘密に迫りたい…。

東洋大学は文系学部を白山に集めて成功した「都心回帰」の先駆者である



地上16階建ての2号館

さて、今回訪れた白山キャンパスは文京区にあり、都営三田線の白山駅から徒歩5分という東京のど真ん中と言っている場所だ。今から10年前(2005年)に東洋大学は文系学部をここに集め4年間一貫教育を始めた。いわゆる「都心回帰」と呼ばれる方針の先駆けで、これにより志願者が増加したため他の私立大も追随することになった。

白山駅を降り、旧白山通りと並行に伸びる細い道を大学へ向かうと、東洋大学の腕章をつけた警備員たちが交通整理をしていて、さながら東洋大専用通路状態である。学生たちに混ざってそのまま構内に入ると、どこかいビルが建ち並んでいる。ひときわ目を引くのが地上16階建ての2号館だが、私が目指しているのはそこではない。6号館だ。6号館の地下には「学

食ランキング」で常にトップにランクされる学生食堂があるのだっ!

東洋大学は6地下の学食をフードコートにしてしまった!

昼前に到着したのに結構混んでいる6号館地下の学食は巨大フードコートであった。カレー、パスタ、洋食、鉄鍋、トルコ料理等々7つもの店舗があり、それぞれの店舗前には食券販売機で食券を買ってカウンターで待っている店員に渡す仕組み。驚くことにどの店舗も基本は500円のセットで、



半分&半分のカレーランチ。ナンがトレーからはみ出す!

大盛りにしたり一品足しても550円程度。

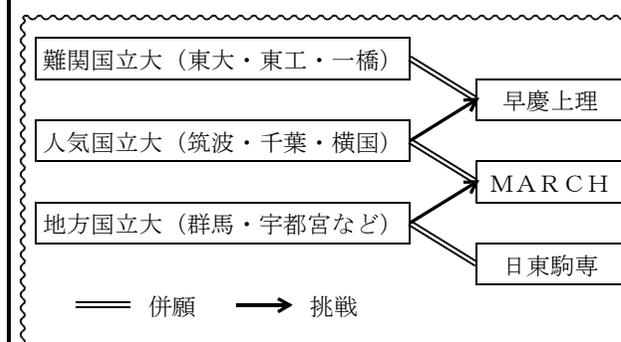
どこにしようか迷ったあげく、インド人のおじさんが微笑んでいるカレー屋に決め、半分&半分のセット(500円)の食券を購入。食券を渡すと「ナン、ご飯?」と聞くので「ナン!」と言うと、もう一人の店員が専用釜でナンを焼き始めたのではないかと。さらに「ウーロン茶、ラッシー?」と聞くので「ラッシー!」と答え、「カレーどれ?」と聞かれ「チキンとベジタブル」と答えると、トレーにはカレー2種とラッシーとサラダと焼きたての大きなナンがドカン。さて実食。うまいっ! この本格的インドカレーがワンコインなのは信じられない…。やはり学食ランク1位は素晴らしい!



学食ランキング第1位の学食

東洋大学に地方からも数多く受験するのは国公立大学の併願校だからだ…

説明会は5号館の井上円了ホール(創設者の名前を冠したホールで700席もある立派なもの)で開催。まずは副学長が登場して概要説明。この自慢話を聞きながら、東洋大志願者数がなぜ多いかわかってきた。東



洋大は他の私立大に比べて一般入試の定員割合が高く(今年度入学者の74.5%が一般入試)、地方からの受験者も多い。東洋大は首都圏私大のランクでは、早慶上理、MARCHに次ぐ第3グループ「日東駒専」の一つ。受験生が第一志望に考えることは少ないが、地方国立大志望者が併願校として受験するのだ(左図は国立大志望者の一般的な併願状況)。さらに言うと、この大学は常に改革が早く話題性に富んでいる。前述のムーミン、都心回帰、

Web出願、学食などもそうだが、さらに日東駒専の中では唯一SGU(文科省のスーパーグローバル大学創成支援)に採択されたのを機に、なんと2017年度には国際学部・国際観光学部・情報連携学部の3学部を一気に開設し、都内に新たなキャンパスも作るのだと副学長が声高らかに述べている… ホントに元気だ。その後、入試部長の話は目を閉じながら聞き、さらに美人事務職員の先導で英語の授業を見学し解散。

東洋大の人気は急上昇…でも土産となる大学グッズはまだまだだ

説明会后、私はもちろん生協購買部で土産を物色することに。ところが生協は狭っ! さらに大学グッズコーナーも狭っ! 大学名入りのお菓子もないし、マフラータオルは売り切れていて補充されていない。しょうがなく大学名が入ったシャーペンと、中2になってなぜか水泳部から陸上部に鞍替えした息子のために「駅伝ミサンガストラップ」を購入(ちっちゃな陸上シューズのレプリカが付いているストラップで、値段表示がないけど高くはないはず…。レジに持って行くと「875円です」と美人生協職員にサラリと言われ、握っていた500円玉をあわてて1000円札に持ち換えて支払い、レシートを見る…えっ、このストラップ772円もするの!? 家に帰って息子に土産を渡すと、コチラを見もせず「ありがと」と聞き取れないほど小さな声で言われておしまい…。昔はムーミンみたいに可愛かったのに、だから反抗期はきらいだ!